

新 市 町

えどさき 江戸崎町



岩月町長

この町は稻敷郡のほぼ中央部に位置し、土浦からバスで約1時間、東は桜川大須賀村、西は牛久町と竜ヶ崎市に南は新利根村、北は美浦村と阿見町にそれぞれ隣接している。昔この地方は常陸国信太荘および東条荘に属して土岐氏の所轄になっていたが、後佐竹氏を経て徳川氏の所領であつたけれども明治維新となり、新治、宮谷、若森県の一部にそれぞれ分け明治8年5月に茨城県に編入された。しかし最近町村合併の機運が盛上り、昭和29年11月3日に旧江戸崎町を中心に隣接の君賀、沼里、鳩崎、高田の各村が合体して面積52.11平方町、人口13,497人(男6,476、女7,021)、世帯数2,520(昭和32年毎月人口調査)を有する新町として発足し、全町民の融和協調をモットーに新しい町作りのために力強い足どりを示している。

2. 産 業

まず農業面を見ると、農家戸数1,805戸、農家人口10,187人(男4,920、女5,267)、耕地面積1,960町(田1,102町、畑745町、樹園地111町)に達している。(昭和32年8月夏期調査)なかでも栽培面積の多いものは、小麦286町、大麦227町、さつまいも211町、大豆120町、らつかせい86町、蔬菜類などで、特に君賀地区の白菜は78,000メ、すいか35,000メ、れんこん30,000メを毎年京浜方面へ出荷しており、本県特産物のホープとして推奨され今後も大いに有望されている。次に畜産面を見ると、おもなものは乳牛38頭、役牛967頭、馬120頭、山羊82頭、豚1,612頭、兎1,091頭、にわとり14,103羽、あひる154羽であるが、(昭和32年2月冬期調査)町としても農業の酪農化と特用作物への作付転換を奨励している。穀倉地帯だけあつて農機具の普及もめざましく、おもなものだけでも電動機389台、石油発動機496台、動力脱穀機830台、足踏348台、動力糶すり機333台、製粉機207台、精米機538台、噴霧機118台、動力製糶機146台、足踏993台、畜力砕土機241台、畑用播種機168台、畜力すき775台(昭和32年2月冬期調査)に達し、農業の機械化と動力化が急速に進んできた。本年から新農村建設計画指定町となり、農業振興計画と農家収入増加策を着実に推進しようとしている。またこの地方は戦前から土地改良事業が大規模に実施されており、干拓面積もすでに180町に達し、さらに余郷入地区にも新しく140町の干拓に着手し、近い将来には美しい水田が造成されることだろう。また他地区には珍しい大規模な畑地かんがい施設を土地改良区が中心になって完成し、その受益面積は115町の広きにおよんでいる。

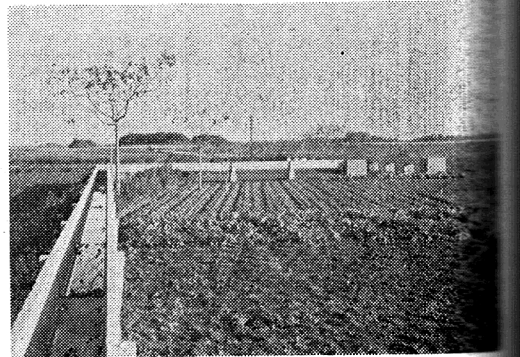
次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店数83、従業者168名、年間商品販売額8億6,016万円常用労働者のいない個人商店数190、従業者数398名、年間販売額1,656万円に達しているが、食料品、洋品雑貨、衣服身廻品小売業などが多い。また工業面を見ると工場

1. 沿 革

数20、従業者数234名、製造出荷額6,653万円に過ぎず他に見るべきものはない。

3. 教育文化

ここには高校1、中学校5、小学校6、幼稚園1、各種学校1あつて、高校生徒908名(男545、女363)、中学生徒840名(男440、女400)、小学児童1,902名(男927、女975)、幼稚園児141名(男67、女74)、各種学校男女20名にのぼっている。町としても中学校の統合強化、小学校の施設の拡充を計っているが、すでに小学校の教室を950万円増築を完了し、中学校の新敷地も決まて来年度に新築する由。青年婦人団体の活動も活発に生活改善をはじめ各種の講習会を開いて教養文化の振興を計り、恒例の産業文化祭や敬老会、七五三合同祭なども開催している。また消防団も統合強化を促進し、消防27、自動車ポンプ1台、三輪車ポンプ1台、手投ポンプ1台、小型動力ポンプ15台、腕用ポンプ6台、鉄骨火油15基、貯水池(20~40立方メートル)15を有し、郡内でも優秀な実績を収めている。名所旧蹟としては江戸崎城跡をこめ茨城百景の一つである吹上の秋の月、羅漢山の夕陽などが景勝の地として知られているが、ここから遠望すると筑波山や桑山台から望む富士の姿は天下無双の雄大な景といわれる。



「江戸崎佐倉原の畑地かんがい施設」

岩月町長の抱負

1. 中学校の統合強化と小学校の改築によつて、施設の整備と教育内容の充実を計ること。
2. 小野川の改修事業羽賀沼および余郷入干拓事業を進して、農業生産力の増強を計ること。
3. 農法の転換と科学的研究を奨励して農村経済の発展を期すること。
4. 商工会の育成と金融対策、観光事業を助長すること。
5. 無医地区に対して診療所を開設するとともに衛生施設を整備すること。
6. 交通網の整備と産業道路の改修を計ること。
7. 納税組合を育成助長して、町財政の確立と予算的の使用に努めること。
8. 職員の研修を行い、事務能率と教養の向上を計ること。
9. 機構改革による財政の節約を計り、有線放送局を開設して連絡機関の整備を計ること。

昭和32年度一般会計歳入歳出当初予算

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及び使用料及び財産収入	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	町債	合				
入	27,685,000	13,000,000	15,000	972,000	1,500,000	3,200,000	0	1,000,000	1,200,000	275,000	1,000,000	49,885,000			
歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	町債費	諸支出金	予備費	合
出	1,256,000	11,385,425	4,039,500	3,500,000	16,578,410	881,200	942,000	4,576,700	177,700	281,000	62,600	329,914	5,521,700	314,851	49,885,000

顔 横 の

勝田市



安市長

1. 沿革

本市は水戸からバスで20分、汽車で10分、東は那珂湊市、西南部は那珂川を隔てて水戸市と常澄村に、北部は東海村と那珂西町にそれぞれ隣接している。昔この地方は徳川時代から昭和に至るまで平和な農村地帯であつたが、昭和15年に中野、勝田、川田の三地域にまたがる105万坪という広大な敷地に日立製作所が誘致され、戦争の進展に伴つて軍需工場の発達もめざましく、さらに日立工機も入り、大工場地帯として将来の発展を約束されたのである。し

戦後によつてこの町も急激に衰微し苦難の時期を迎へたが、町民の復興意欲と各工場の平和産業への転換によつてようやく発展の兆候を見出し、さらに県営、町営の増加や自衛隊の駐屯、都市計画の進捗、重要幹線の整備などによつて市街地が形成されるに至つた。昭和29年3月30日には勝田町へ前渡村の一部、29年11月には佐野村をそれぞれ編入して勝田市が新しく誕生し、面積74.74平方キロ、人口87,773人(男18,686、女69,087)、世帯数7,421を有し、(昭和32年9月毎月人口)県内においては日立市に次ぐ近代的な工業都市として名実共に大きな発展を遂げることだろう。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数3,145、農家人口18,054(男8,743、女9,311)、耕地面積3,124町(田882町、畑230町、樹園地5町)に達しているが、なかでも多いのは小麦1,198町、小麦870町、大麦752町、大豆139町などで、むし切甘藷は実に年産50万㎡にのぼり、すいかなども農家の大きな収入源となつている。(昭和32年夏季調査)次に畜産面を見ると、乳牛207頭、役牛582頭、馬160頭、めん羊43頭、山羊297頭、豚3,081頭、兎199頭にとり12,440羽にのぼつており、(昭和32年2月冬期調査)町としても畜農業への転換を奨励している。また優良品種の役牛5頭、役牛5頭、豚74頭を導入して優良農家へ年賦償還の方法で貸付している由。また農業機械の普及状況を見ると、おもなものは電動機237台、石油発動機651台、ガーデントラクター9台、ハンダトラクター7台、動力耕うん機15台、脱穀機852台、動力刈り機211台、製粉機84台、精製機372台、噴霧機357台、動力製糞機116台、足踏機1台、畜力カルチベーター144台、畜力碎土機136台、畑耕機133台、畜力すき444台に達し、農業の機械化が著進に進んでいる。(昭和32年2月冬期調査)

次に工業面を見ると、県内屈指の工業都市だけに工場数66、従業者数3,214名、年間製造出荷額は実に46億3,300万円にのぼつており、なかでも電気機関車をはじめ、電気ドリル、電気ストーブ、グラインダ、トースター、制御器、ロール、車軸の生産が非常に多く、特に電気機関車は遠く東南アジア、印度方面に輸出して大変好評を受けている。次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店数75、従業者数340名、年間商品販売高1億1,224万円、常用労働者を有しない個人商店数397、

4. 財政

昭和32年度一般会計歳入歳出予算

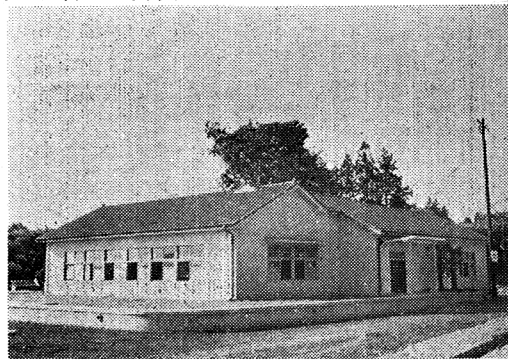
(単位円)

市税	地方交付税	公営企業及 び財産収入	使用料及 手数料	国庫 支出金	県 出金	支 金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	市債	合 計			
93,619,100	4,000,000	3,020,000	4,617,700	19,656,930	1,767,410	855,000	10	10,000,000	4,733,230	10,000,000	157,269,380				
議会費	役所費	警 察 消防費	土木費	教育費	社会及 衛生施設費	保 健 衛生費	産 業 経済費	開 発 振興費	財産費	統 計 調査費	選挙費	公債費	諸 支 出金	予備費	合 計
3,946,580	23,290,800	7,054,010	12,092,100	36,114,310	417,540	7,736,600	10,093,040	4,787,750	1,402,040	342,710	207,110	3,252,500	16,032,880	1,500,000	157,269,380

従業者数694名、6月中商品販売高3,681万円に達しており、住宅街の増加に伴つて消費都市として発展するものと将来が大いに嘱望されている。

3. 教育文化

ここには高校(水商分校)1、中学校4、小学校8、幼稚園1あつて、高校生徒209名(男187、女22)、中学生徒2,619名(男1,283、女1,336)、小学校児童5,889名(男2,967、女2,922)、幼稚園児129名(男83、女46)に達し、市としてもPTAの協力によつて学校施設の整備改善に努めている。青年婦人団体も公民館(本1、分館10)を中心に指導者講習会、青年祭をはじめ、めざましい活躍を続けており、特にはえと救っている由。また市営の保育所は2カ所あり、上水道建設工事も工費8,930万円余でさる7月完成し、市民の生活改善と福祉増進に拍車をかけている。消防団施設も市消防署をはじめ消防団、自衛隊、日製、日工などに常設されて、水槽付自動車ポンプ5台、中型ノ8台、小型ノ1台、三輪ノ4台、その他1台を有し立派な実績を取っている由。また自衛隊は市街地の東端に勝田駐屯部隊と施設学校があつて、演習施設の整備拡充に伴い、今後市発展のため日製、日工とともに大きな役割を果たすことだろう。この名所旧蹟としては文祿年間徳川光圀公の経営にかかる百樹を植えた百色山をはじめ徳川斉昭公の御狩場長者ヶ谷津、古噴として知られる中根十五郎穴、三反田の蛭塚、天然記念物の金砂神社の大杉、鹿島神社の黒松、枝川の大松、勝倉の川柳などは古くから知られている。



(市営浄水場)

安市長の抱負

1. 常陸地区鉾川都市開発の構想と県のマスタープランを勘案して、総合的長期計画を樹立推進すること。
2. 首都圏整備法による適用地域指定の受入態勢を整えること。
3. 上水道の建設事業を推進すること。
4. 文教施設の整備拡充を計るために本年度は第1、2中学校および市毛小学校の増築を行うこと。
5. 常設消防団を設置して消防態勢を確立すること。
6. 農工業の循環経済を基調として、産業振興対策を樹立推進すること。